安全データシート

この安全データシートは以下の要件に準拠している:
JIS Z 7252:2019; JIS Z 7253:2019

発行日 02-9-2026 **改訂日** 02-9-2026 **改訂番号** 1

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 Penetrating Dryene

登録番号 情報なし

安全データシートの供給者の詳細

製造者
The MazWell Group Ltd.
Units 11/14-15 Ardglen
Industrial Estate,
Whitchurch, Hampshire,
RG28 7BB, United Kingdom
+44 (0)1256-893883
+44 (0)1256-893868
enquiries@themazwellgroup.com

供給者
Cosmo Trade and Service Co., Ltd.
23rd Floor, msb Tamachi, Tamachi Station Tower N, 3-1-1 Shibaura, Minato-ku, Tokyo 108-0023, Japan
TEL:03-3798-9315 / FAX：03-3798-9415
cts_embalming@cosmo-oil.co.jp
www.cosmo-trade.com

緊急連絡電話番号 +44 (0)1256 893883 (Mon- Fri 9:00 am - 4:30 pm GMT)
+81-3-3798-9315

化学品の推奨用途及び使用上の制限

推奨用途 エンバーミング薬品

使用上の制限 目的のアプリケーションにのみ使用してください

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS 分類

引火性液体	区分 2
誤えん有害性	分類できない
急性毒性(経口)	区分 3
急性毒性(経皮)	区分 3
急性毒性(吸入) - ガス	区分に該当しない
急性毒性(吸入) - 蒸気	分類できない
急性毒性(吸入) - 粉じん／ミスト	区分 3
皮膚腐食性／刺激性	区分 2
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分 1
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	区分 1
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	分類できない

生殖毒性	区分 1B
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分 1 区分 2 区分 3
区分 1　中枢神経系、視覚器、全身毒性。	
区分 2　血液系、神経系。	
区分 3　標的臓器影響:　麻酔作用。	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分 1 区分 2
区分 1　中枢神経系、視覚器。	
区分 2　呼吸器、泌尿器系。	
水生環境有害性 - 急性	区分 2
水生環境有害性 - 慢性	区分 3
オゾン層への有害性	分類できない

GHSラベル要素

注意喚起語 危険

危険有害性情報
- 引火性の高い液体及び蒸気
- 飲み込むと有毒
- 皮膚に接触すると有毒
- 吸入すると有毒
- 皮膚刺激
- 重篤な眼の損傷
- アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
- 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
- 眠気又はめまいのおそれ
- 水生生物に毒性
- 長期継続的影響によって水生生物に有害
- 臓器の障害
- 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害
  以下の臓器の障害:　中枢神経系、視覚器、全身毒性。
  以下の臓器の障害のおそれ:　血液系、神経系。
  長期にわたる、又は反復ばく露による以下の臓器の障害:　中枢神経系、視覚器。
  長期にわたる、又は反復ばく露による以下の臓器の障害のおそれ:　呼吸器、泌尿器系。

注意書き
安全対策
- 取扱い後は顔、手、露出した皮膚をよく洗うこと
- この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと
- 保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること
- 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること
- 汚染された作業衣は作業場から出さないこと
- 使用前に取扱説明書を入手すること
- 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと
- 粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと
- 環境への放出を避けること
- 防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること
- 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙
- 容器を接地しアースをとること

• 火花を発生させない工具を使用すること
• 静電気放電に対する措置を講ずること

応急措置

• 特別な処置が緊急に必要である(このラベルの応急措置についての補足指示を見よ)
• 気分が悪いときは，医師の診察、手当てを受けること
• 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること
• 直ちに医師に連絡すること
• 飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること
• 口をすすぐこと
• 皮膚に付着した場合：多量の水と石けん(鹸)で洗うこと
• 汚染された衣類を直ちに全て脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること
• 皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合：医師の診察、手当てを受けること
• 皮膚(又は髪)に付着した場合：直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。皮膚を流水／シャワーで洗うこと
• 気分が悪いときは医師に連絡すること
• 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること
• 医師に連絡すること
• 火災の場合：消火するために乾燥した砂、粉末消火剤又は耐アルコール泡消火剤を使用すること

保管

• 涼しいところに置くこと
• 施錠して保管すること
• 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと

廃棄

• 内容物、容器を国際、国、都道府県、及び市町村の規則に従って廃棄すること

他の危険有害性

• 情報なし

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 混合物

化学名又は一般名	CAS番号	重量%	化審法インベントリ	化審法番号	安衛法インベントリ	安衛法番号
メタノール	67-56-1	81.4	既存	(2)-201	既存	(2)-201
プロピレングリコール	57-55-6	9.5	既存	(2)-234	既存	2-(8)-321,2-(8)-323
しゆう酸	144-62-7	5.68	既存	(2)-844	既存	(2)-844
サリチル酸	69-72-7	1.16	既存	(3)-1640	既存	(3)-1640
クエン酸	77-92-9	1 - <3	既存	(2)-1318	既存	(2)-1318
第四級アンモニウム化合物、C12-14アルキル((エチルフェニル)メチル)ジメチル	85409-23-0	0.1 - <0.5	情報なし		情報なし	
アルキルジメチルベンジルアンモニウムクロリド(C12-18)	68391-01-5	0.34	既存	-	既存	-

当製品は、呼吸器感作性区分1又は1B に分類される成分を0.1%以上1.0%未満含有している。

4. 応急措置

一般的なアドバイス 治療を行う医師にこのSDSを示すこと。直ちに医師の手当てを受ける必要がある。

吸入した場合 症状が出た場合には、直ちに医師の手当てをうけること。ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察、手当てを受けること。吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。医師に連絡すること。負傷者が本製品を飲み込んだり吸入した場合には口移し法は使わないこと 。一方向弁付きポケット・マスク又は他の適切な呼吸医療装置を使用して人工呼吸を行うこと。呼吸が困難な場合には、(資格のある者が)酸素吸入を行うこと。

皮膚に付着した場合	汚染された衣服及び靴を脱ぎ、直ちに石けん(鹸)と多量の水で洗うこと。直ちに医師の診察／手当てを受けること。アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ。
眼に入った場合	直ちに少なくとも15分間まぶた(瞼)の裏側まで多量の水で洗うこと。洗っている間は眼を大きく広げたままにすること。受傷部をこすらないこと。直ちに医師の診察／手当てを受けること。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
飲み込んだ場合	無理に吐かせないこと。口をすすぐこと。意識のない者には、何も口から与えてはならない。直ちに医師の診察／手当てを受けること。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状	灼熱感。失明を引き起こすおそれがある。眼の発赤および流涙を引き起こすおそれがある。掻痒感。発疹。じんま疹。紅斑(皮膚の発赤)。咳及び／又は喘鳴。呼吸困難。高濃度の蒸気を吸入すると、頭痛、めまい、疲労、吐き気及び嘔吐のような症状を引き起こすおそれがある。
応急措置をする者の保護に必要な注意事項	すべての着火源を排除すること。医療者に物質の関与を伝え、自身の保護及び汚染の拡大を防止するための措置を講じること。指定された個人用保護具を着用すること。詳細については項目8を参照。皮膚、眼又は衣類との接触を避けること。粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。個人用保護具を使用すること。負傷者が本製品を飲み込んだり吸入した場合には口移し法は使わないこと 。一方向弁付きポケット・マスク又は他の適切な呼吸医療装置を使用して人工呼吸を行うこと。
医師に対する特別な注意事項	過敏な人に感作を引き起こすおそれがある。症状に応じて治療すること。

5. 火災時の措置

適切な消火剤	粉末消火剤。二酸化炭素(CO2)。水噴霧。耐アルコール泡消火剤。
使ってはならない消火剤	情報なし。
特有の危険有害性	着火のリスク。製品及び空容器を熱源及び着火源から遠ざけること。火災の場合には、水噴霧でタンクを冷却すること。燃焼残留物や汚染された消火水は現地の規制に従って廃棄しなければならない。製品は感作性物質である、又は感作性物質を含む。皮膚接触により感作を引き起こすことがある。
爆発性	爆発性はないと考えられる。
特有の消火方法	提供された情報に基づき知見なし。
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	消火を行う者は自給式呼吸器及び消火活動用の完全装備を着用しなければならない。個人用保護具を使用すること。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	人員を安全な区域に退避させること。指定された個人用保護具を着用すること。詳細については項目8を参照。皮膚、眼又は衣類との接触を避けること。十分換気されているか確認すること。人員を漏出／漏えい(洩)の風上に遠ざけること。全ての着火源を排除すること(近接区域は禁煙とし、裸火、火花又は火炎を排除すること)。フラッシュバックに注意すること。静電気に対する予防措置を講ずること。製品を取り扱うときは使用する全ての器材を接地すること。漏出物に触れたりその上を歩いたりしないこと。粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。個人用保護具を使用すること。
緊急対応を行う者のための保護具	項目8で推奨されている個人用保護具を着用すること。
環境に対する注意事項	項目7及び項目8に記載されている保護措置を参照すること。安全に対処できるならば、それ以上の漏えい(洩)又は漏出を防ぐこと。製品が排水路に入らないようにすること。環境中に放出してはならない。表土／下層土に侵入させないようにすること。水路、下水道、地下室又は密閉空間への侵入を防止すること。

封じ込め方法 リスクを伴わずに可能ならば漏えい(洩)を止めること。漏出物に触れたりその上を歩いたりしないこと。蒸気抑制泡を使用して蒸気を減らすことができる。流去水を回収するために液体流出物のかなり前方に堤防を築くこと。排水路、下水溝、排水溝、水路に入らないようにすること。後で廃棄するために土、砂又はその他の不燃性材料に吸収させて容器に移すこと。

浄化方法 静電気に対する予防措置を講ずること。せき止めること。不活性吸収材料で吸収すること。回収して適切に表示された容器に移すこと。

二次災害の防止策 汚染された物体及び区域を環境規則に従って十分に浄化すること。

その他の情報 その区域を換気すること。項目7及び項目8に記載されている保護措置を参照すること。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

安全取扱注意事項 個人用保護具を使用すること。蒸気又はミストを吸い込まないようにすること。熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。静電気の放電、火災又は爆発を防止するために、この物質を移動するときは接地及びアース接続を使用すること。火花を発生させない工具及び防爆型の機器を使用すること。スプリンクラーが装備された区域に保管すること。包装容器のラベルに記載の指示に従って使用すること。産業衛生安全対策規範に従って取り扱うこと。皮膚、眼又は衣類との接触を避けること。汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。換気が不十分な場合、適切な呼吸用保護具を着用する。汚染された衣類及び靴を脱ぐこと。製品の取扱いを閉鎖系内に限定するか適切な排気式換気を設けること。汚染された衣類を直ちに全て脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。

衛生対策 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。汚染された作業衣は作業場から出さないこと。機器、作業区域及び衣類を定期的にクリーニングすることが推奨される。休憩前及び製品の取扱い直後に手を洗うこと。皮膚、眼又は衣類との接触を避けること。保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。汚染された衣類及び手袋は脱ぎ、再使用する前に内側を含めて洗濯すること。粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。項目8で推奨されている個人用保護具を着用すること。汚染された衣類を直ちに全て脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

保管

安全な保管条件 容器を密閉して乾燥した涼しく換気のよい場所に保管すること。熱、火花、炎及び他の着火源(例えば、点火バーナー、電気モーター及び静電気)から遠ざけること。適切な表示のある容器に保管すること。可燃性物質の近くには保管しないこと。スプリンクラーが装備された区域に保管すること。個別の国内規制に従って保管すること。現地の規則に従って保管すること。子供の手の届かない場所に保管すること。施錠して保管すること。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度

化学名又は一般名	労働安全衛生法 作業環境評価基準 - 管理濃度
メタノール	200 ppm

許容濃度

化学名又は一般名	ISHL濃度基準値	日本産業衛生学会	ACGIH TLV
メタノール 67-56-1	-	TWA: 200 ppm; TWA: 260 mg/m³; pSk	TWA: 200 ppm STEL: 250 ppm pSk
しゆう酸	-	-	TWA: 1 mg/m³

144-62-7			STEL: 2 mg/m³

注 用語及び略語については項目16を参照。

生物学的許容値

化学名又は一般名	日本産業衛生学会	ACGIH
メタノール 67-56-1	20 mg/L −urine (Methanol) −end of shift	60 % of baseline - plasma (Butyrylcholinesterase activity) - end of shift 70 % of baseline - red blood cells (Acetylcholinesterase activity) - end of shift 15 mg/L −urine (Methanol) −end of shift

設備対策 シャワー
洗眼場
換気システム。

環境ばく露防止 情報なし。

保護具

呼吸用保護具 適切な呼吸用保護具を着用すること。インダストリアル・ハイジニストに相談のうえ、この物質の使用者独自の用途に対する適切な呼吸用保護具を決定すること。

眼及び／又は顔面の保護具 顔面保護シールド。密封性の高い安全ゴーグル。適切な眼保護具を使用すること。

手の保護具 適切な手袋を着用すること。不浸透性手袋。

皮膚及び身体の保護具 適切な保護衣を着用すること。長袖の衣類。帯電防止長靴。耐薬品性エプロン。防火服又は防炎服を着用すること。不浸透性衣類。不浸透性の保護長靴。

9. 物理的及び化学的性質

物理的及び化学的性質に関する情報

外観	透明液体	
物理状態	液体	
色	無色	
臭い	軽度 アルコールのような	
臭いのしきい値	情報なし	
特性	**値**	**備考 • 方法**
融点／凝固点		データなし
沸点又は初留点及び沸点範囲	67 - 69 °C / 152.6 - 156.2 °F	@ 760 mmHg
可燃性		データなし
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界		
爆発又は可燃の上限界	36.5%	
爆発又は可燃の下限界	6%	
引火点	11 °C / 51.8 °F	CC(クローズドカップ)
蒸発速度	> 1	酢酸ブチル＝1
自然発火点		データなし
分解温度		データなし
SADT (°C)		データなし
pH		データなし
粘度		
動粘性率		データなし
動的粘度		データなし
水への溶解度	水に可溶	

溶解度		データなし
n－オクタノール／水分配係数(log値)		データなし
蒸気圧	98 mm Hg	@ 20 °C
密度及び／又は相対密度		
相対密度	0.86	@ 20 °C
蒸気濃度		データなし
かさ密度		データなし
相対ガス密度	> 1	
粒子特性		
粒径		該当しない
粒径分布		該当しない

その他の情報	
分子量	情報なし
VOC含有率	情報なし
軟化点	情報なし

物理的危険性クラスに関連するデータ	
爆発物	衝撃に対する感受性
爆発性	爆発性はないと考えられる
酸化性	酸化剤として分類する基準を満たさない

10:安定性及び反応性

反応性 通常の使用条件下ではない。

化学的安定性 通常の条件下で安定。

危険有害反応可能性 通常の条件下で安定。

避けるべき条件 熱、炎及び火花。過剰な熱。

混触危険物質 強酸、強塩基、強酸化剤。

危険有害な分解生成物 提供された情報に基づき知見なし。

爆発データ
静電放電に対する感度 あり。

機械的衝撃に対する感度 なし。

11. 有害性情報

製品情報

経口 この化学物質又は混合物の特定試験データはない。飲み込むと胃腸刺激、吐き気、嘔吐、及び下痢を引き起こすおそれがある。飲み込むと有毒。(成分に基づく)。

吸入 この化学物質又は混合物の特定試験データはない。気道刺激を引き起こすおそれ。吸入すると有毒である。(成分に基づく)。眠気又はめまいのおそれ。

皮膚接触 この化学物質又は混合物の特定試験データはない。皮膚接触により感作を引き起こすことがある。反復又は長期にわたるばく露による皮膚への接触は、敏感な人にアレルギー性反応を生じるおそれがある。(成分に基づく)。皮膚刺激。皮膚に接触すると有毒。

眼接触 この化学物質又は混合物の特定試験データはない。失明を含む非可逆性の損傷を引き起こすおそれがある。重篤な眼の損傷。

物理的、化学的、及び毒性学的特性に関係する症状

症状 灼熱感。失明を引き起こすおそれがある。眼の発赤および流涙を引き起こすおそれがある。掻痒感。発疹。じんま疹。紅斑(皮膚の発赤)。咳及び／又は喘鳴。呼吸困難。高濃度の蒸気を吸入すると、頭痛、めまい、疲労、吐き気及び嘔吐のような症状を引き起こすおそれがある。

急性毒性 飲み込むと有毒。皮膚に接触すると有毒。吸入すると有毒である。

毒性の数値尺度
混合物のATE値は下記のとおり算出されている:
ATEmix(吸入 - 粉じん／ミスト) 0.515 mg/L

未知の急性毒性
混合物の 16.31 %は急性吸入毒性(粉じん／ミスト)が未知の成分から成る

毒性の数値尺度 - 成分情報

化学名又は一般名	経口LD50	経皮LD50	吸入 LC50
メタノール	= 100 mg/kg	= 300 mg/kg	= 22500 ppm (Rat) 8 h
プロピレングリコール	= 20 g/kg (Rat)	= 20800 mg/kg (Rabbit)	−
しゆう酸	= 375 mg/kg (Rat)	= 20000 mg/kg (Rat)	−
サリチル酸	= 891 mg/kg (Rat)	> 2000 mg/kg (Rat)	> 0.9 mg/L (Rat) 1 h
クエン酸	= 3 g/kg (Rat)	> 2000 mg/kg (Rat)	−
第四級アンモニウム化合物、C12-14アルキル((エチルフェニル)メチル)ジメチル	−	= 2300 mg/kg (Rabbit)	−
アルキルジメチルベンジルアンモニウムクロリド(C12-18)	= 850 mg/kg (Rat)	= 2300 mg/kg (Rabbit)	−

略語及び頭文字
Rat: ラット
Rabbit: ウサギ

短期的及び長期的ばく露による直後の影響と遅発性の影響及び慢性的影響

皮膚腐食性／刺激性 成分に対して利用可能なデータに基づく分類。皮膚刺激。

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 成分に対して利用可能なデータに基づく分類。薬傷を引き起こす。重篤な眼の損傷。

呼吸器感作性又は皮膚感作性 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ。

生殖細胞変異原性 利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。分類できない。

発がん性 利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。分類できない。

生殖毒性 生殖毒性を示すことが知られている又は疑われる物質を含んでいる。成分に対して利用可能なデータに基づく分類。生殖能又は胎児への悪影響のおそれ。

特定標的臓器毒性(単回ばく露) 飲み込むと臓器の障害。皮膚に接触すると臓器の障害。眠気又はめまいのおそれ。

以下の臓器の障害: 中枢神経系、視覚器、全身毒性。
以下の臓器の障害のおそれ: 血液系、神経系。

特定標的臓器毒性(反復ばく露) 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害。

長期にわたる、又は反復ばく露による以下の臓器の障害: 中枢神経系、視覚器。
長期にわたる、又は反復ばく露による以下の臓器の障害のおそれ: 呼吸器、泌尿器系。

誤えん有害性 利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性 水生生物に毒性。長期継続的影響によって水生生物に有害。

水生環境毒性

成分情報

化学名又は一般名	魚類	甲殻類	藻類／水生植物	微生物に対する毒性
メタノール	LC50: =28200mg/L (96h, Pimephales promelas) LC50: >100mg/L (96h, Pimephales promelas) LC50: 19500 - 20700mg/L (96h, Oncorhynchus mykiss) LC50: 18 −20mL/L (96h, Oncorhynchus mykiss) LC50: 13500 - 17600mg/L (96h, Lepomis macrochirus)	−	−	−
プロピレングリコール	LC50: =51600mg/L (96h, Oncorhynchus mykiss) LC50: 41 −47mL/L (96h, Oncorhynchus mykiss) LC50: =51400mg/L (96h, Pimephales promelas) LC50: =710mg/L (96h, Pimephales promelas)	EC50: >1000mg/L (48h, Daphnia magna)	EC50: =19000mg/L (96h, Pseudokirchneriella subcapitata)	−
しゆう酸	−	EC50: 125 - 150mg/L (48h, Daphnia magna)	−	−
サリチル酸	−	EC50: =870mg/L (48h, Daphnia magna)	−	−
クエン酸	LC50: =1516mg/L (96h, Lepomis macrochirus)	−	−	−
アルキルジメチルベンジルアンモニウムクロリド(C12-18)	LC50: 0.223 - 0.46mg/L (96h, Lepomis macrochirus) LC50: 0.823 - 1.61mg/L (96h, Oncorhynchus mykiss) LC50: =2.4mg/L (96h, Oryzias latipes) LC50: =1.3mg/L (96h, Poecilia reticulata)	−	−	−

陸生生態毒性

成分情報

化学名又は一般名	ミミズ	鳥類	ミツバチ
メタノール	Acute Toxicity: LC50 > 1 mg/cm2 (Eisenia foetida, 48 h	−	−

化学名又は一般名	ミミズ	鳥類	ミツバチ
	filter paper)		

残留性・分解性 情報なし。

生体蓄積性

成分情報

化学名又は一般名	分配係数	生物濃縮係数(BCF)	栄養蓄積係数(TMF)
メタノール	-0.77	10	-
プロピレングリコール	-1.07	1	-
しゆう酸	-1.7	-	-
サリチル酸	2.25	1000	-
クエン酸	-1.72	-	-

土壌中の移動性 情報なし。

オゾン層への有害性 分類できない。利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。

他の有害影響 情報なし。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 環境中に放出してはならない。現地の規則に従って廃棄すること。環境法律に従って廃棄物を廃棄すること。

汚染容器及び包装 空の容器は火災及び爆発危険有害性を有する。容器を切断、穴開け又は溶接しないこと。

14. 輸送上の注意

国際規制

IMDG

国連番号又はID番号	UN1230
品名(国連輸送名)	メタノール
国連分類(輸送における危険有害性クラス)	3
副次危険性等級	6.1
容器等級	II
海洋汚染物質に該当するかの特定	NP
特別条項	279
EmSコード	F-E, S-D
説明	UN1230, メタノール, 3 (6.1), II, (11°C c.c.)

ADR

国連番号又はID番号	UN1230
品名(国連輸送名)	メタノール
説明	UN1230, メタノール, 3 (6.1), II, (D/E)
国連分類(輸送における危険有害性クラス)	3
副次危険性等級	6.1
容器等級	II
海洋汚染物質	該当しない

ERG コード 3L
特別条項 279

IATA
国連番号又はID番号 UN1230
品名(国連輸送名) メタノール
国連分類(輸送における危険有害性クラス) 3
副次危険性等級 6.1
容器等級 II
海洋汚染物質 該当しない
特別条項 A113
ERG コード 3L
説明 UN1230, メタノール, 3 (6.1), II

国内規則
項目15を参照。消防法、毒劇法、高圧ガス保安法、船舶安全法、航空法に該当する場合はそれぞれの規定に従う。

日本
国連番号又はID番号 UN1230
品名(国連輸送名) メタノール
説明 UN1230, メタノール, 3 (6.1), II
国連分類(輸送における危険有害性クラス) 3
副次危険性等級 6.1
容器等級 II
環境有害性 該当しない

15. 適用法令

国内規制
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR-SDS)
該当しない

労働安全衛生法

有機溶剤中毒予防規則
第2種有機溶剤等 ー 施行令別表第6の2・有機溶剤中毒予防規則第1条第1項第4号
危険物
労働安全衛生法施行令別表第1
引火性の物
通知対象物質・リスクアセスメント対象物質
法第57条の2、施行令第18条の2、及び法第57条の3

告示名称	含有量%(合計)	施行日
メタノール	81	
プロピレングリコール	9.5	
しゆう酸	5.7	
サリチル酸	1.2	
塩化ベンザルコニウム	0.34	

表示対象物質
第57 条第1項施行令第18条

告示名称	含有量%(合計)	施行日
メタノール	81	
プロピレングリコール	9.5	
しゆう酸	5.7	
サリチル酸	1.2	

労働安全衛生法 作業環境評価基準 - 管理濃度
作業環境測定を行うべき作業場(労働安全衛生法施行令第21条及び作業環境評価基準 - 実行上の管理レベル)
詳細な仕様については、SDSの項目8を参照

強い変異原性が認められた化学物質
変異原性が認められた新規化学物質(労働安全衛生法第57条の3第3項、労働基準局局長通達)
皮膚等障害化学物質

化学名又は一般名	含有率 %
メタノール	81
しゆう酸	5.7
サリチル酸	1.2

毒物及び劇物取締法
該当しない

消防法
引火性液体、第4類、アルコール類、危険等級 II、400リットル

化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律(化審法)
法第2条 第2項、第3項、第4項、第5項、第8項

化学名又は一般名	CAS RN	含有率 %	分類	政令番号/通し番号
イソプロピルアルコール	67-63-0	0.033	優先評価化学物質	102
プロピレングリコール	57-55-6	9.5	優先評価化学物質	106
アルキルジメチルベンジルアンモニウムクロリド(C12-18)	68391-01-5	0.34	優先評価化学物質	184

船舶安全法
詳細については項目14を参照
航空法
詳細については項目14を参照
海洋汚染及び海上災害の防止に関する法律
該当しない
労働基準法
化学物質により引き起こされる業務上の疾病 - 労働基準法第75条、労働基準法施行規則第35条及び別表第1の2、項目4の1
大気汚染防止法
大気汚染防止法第3条に排出基準が規定されている大気汚染物質
法第17条、第1項及び施行令第10条
大気汚染防止法第2条、第4項で定める揮発性有機化合物

国際規制

残留性有機汚染物質に関するストックホルム条約 該当しない

ロッテルダム条約 該当しない

国際インベントリー
インベントリー準拠状況については供給者まで問い合わせること

16. その他の情報

発行日 02-9-2026

改訂日 02-9-2026

改訂記録 第1版。

安全データシートで使用されている略語及び頭文字のキー又は凡例

リストにはこの製品に適用されない警句も含まれている可能性がある

ACGIH	米国産業衛生専門家会議
ADN	内陸水路による危険物の国際輸送に関する協定(欧州)
ADR	道路による危険物の国際輸送に関する欧州協定(欧州)
AIIC	オーストラリア既存工業化学物質インベントリ
ATE	急性毒性推定値
ASTM	米国材料試験協会
bar	作業場における化合物の生物学的基準値
BAT	職業ばく露の生物学的許容値
BEL	生物学的許容値
bw	体重
天井値	最大限界値
CMR	発がん性物質、変異原性物質、生殖毒性物質
DOT	運輸省(米国)
DSL	国内物質リスト(カナダ)
EINECS	欧州既存商業化学物質インベントリー
ELINCS	欧州届出化学物質リスト
EmS	非常措置指針
化審法インベントリ	既存及び新規化学物質(日本)
EPA	米国環境保護庁(Environmental Protection Agency)
GHS	世界調和システム
IARC	国際がん研究機関
IATA	国際航空輸送協会
IBC	危険化学薬品のばら積みの運送のための船舶の構造及び設備に関する国際規則
ICAO	国際民間航空機関
IECSC	中国現有化学物質名簿
IMDG	国際海上危険物
IMO	国際海事機関
安衛法インベントリ	労働安全衛生法(日本)
ISO	国際標準化機構
KECI	韓国既存化学物質インベントリー
LC50	試験集団の50%に対する致死濃度
LD50	試験集団の50%に対する致死量(半数致死量)
MARPOL	船舶による汚染防止のための国際条約
NDSL	非国内物質リスト(カナダ)
他に品名が明示されているものを除く	他に品名が明示されていないもの
NOAEC	無毒性量
NOAEL	無毒性量
NOELR	無影響負荷率
NZIoC	ニュージーランド化学物質インベントリー
OECD	経済協力開発機構
OEL	職業ばく露限度
PBT	残留性、生物蓄積性、毒性物質
PICCS	フィリピン化学品・化学物質インベントリー
PMT	残留性、移動性、毒性
PPE	保護具
PRTR	化学物質排出把握管理促進法
QSAR	定量的構造活性相関
RID	鉄道による危険物の国際輸送に関する規則(欧州)
SADT	自己加速分解温度
SAR	構造活性相関
SDS	安全データシート
SL	許容付着量
STEL	短時間ばく露限度
STOT RE	特定標的臓器毒性 - 反復ばく露ロ

STOT SE	特定標的臓器毒性 - 単回ばく露
TCSI	台湾既存化学物質インベントリー
TDG	危険物輸送法及び規則(カナダ)
TSCA	有害物質規制法(米国)
TWA	時間加重平均
UN	国際連合
VOC	揮発性有機化合物
vPvB	高残留性、高生物蓄積性
vPvM	高残留性、高移動性
As	アレルギーを引き起こす物質
DS	皮膚感作性物質
Ot	聴力の障害をもたらすおそれがある
pOt	聴覚毒性物質 - 聴覚障害を引きおこすおそれのある物質
PS	光増感剤
RS	呼吸器感作性物質
S	感作性物質
poS	感作性物質 - 職業性喘息を引きおこすおそれ
Sa	単純窒息剤
Sd	経皮吸収
pSd	皮膚吸収 - 皮膚から吸収されるおそれ
Sdv	皮膚吸収 - 取消
Sk	経皮指標
dSk	経皮指標 - 皮膚吸収の危険性
pSk	経皮指標 - 皮膚吸収の可能性

本SDSの編集に使用した主要参考文献及びデータ源
米国環境保護庁ChemViewデータベース
欧州化学品局
欧州食品安全機関(EFSA)
米国環境保護庁(Environmental Protection Agency)
急性ばく露ガイドラインレベル(AEGL)
米国環境保護庁、連邦殺虫剤、殺菌剤、殺鼠剤法
米国環境保護庁高生産量化学物質
フードリサーチジャーナル (Food Research Journal)
米国有害物質データバンク(HSDB)
国際統一化学情報データベース(IUCLID)
日本製品評価技術基盤機構(National Institute of Technology and Evaluation, NITE)
オーストラリア国家工業化学品届出審査機構(NICNAS)
米国労働安全衛生研究所(NIOSH)
米国医学図書館ChemID Plus(NLM CIP)
米国国家毒性プログラム(NTP)
ニュージーランド化学物質分類・情報データベース(CCID)
国際経済協力開発機構(International Organization for Economic Co-operation and Development, OECD)の環境、保健及び安全に関する出版物
国際経済協力開発機構(International Organization for Economic Co-operation and Development, OECD)高生産量化学物質プログラム
国際経済協力開発機構(International Organization for Economic Co-operation and Development, OECD)スクリーニング情報データセット
国際連合世界保健機関(World Health Organization, WHO)

免責事項
この安全データシートは、JIS Z 7253:2019 に準拠している。このSDSに記載されている内容は、発行日時点の知見、情報に基づき正確を期したものです。ここに記載されている情報は当該製品の安全な取扱い、使用、加工処理、保管、運搬、廃棄、漏えい(洩)時の処理など指針とすることのみを目的としたものであり、いかなる保証をするものではなく、また品質仕様ではありません。本文中に明記されている場合を除き、他の何らかの材料と組み合わせて使用した場合、又は何らかのプロセスに使用した場合には、有効でなくなる場合があります。

安全データシートのおわり